



インド・ASEAN 総集編

1. はじめに

2014年1月号から約3年にわたって続けてきた連載も本号を最後に一区切りとさせていただきます。これまで、様々な国に行き、そこで知り合った各国の友人たちに自国の文化を紹介してもらう記事を書いてもらいました。最終回ということで、その振り返りをしたいと思います。

2. インド

中国に並ぶ人口大国のインド。日本版新幹線の導入も決まり、インフラ投資はますます加速しています。私は、2015年にはじめて訪問。友人であるインド人弁理士の結婚式に参列しました。インドの結婚式は三日三晩昼夜を問わず盛大に祝うことで有名です。私もその一端を体験することができました。デリーの中心部を走る地下鉄に乗ると、日曜日にもかかわらず、一昔まえの日本のラッシュアワーを体験することができました。

3. ASEAN

所属事務所が、マレーシアのクアラルンプールにマンションを借りていたこともあり、

クアラルンプールを中心に、ASEAN各国を訪問しました。

知財制度が未だ確立されていないミャンマーには、首都ネピドーの科学技術省を訪れ、未来の特許庁職員と意見交換を行いました。また、週末には、敬虔な仏教徒である科学技術省職員に連れられ、瞑想所（Meditation Center）で1日瞑想体験をしました。オリエンテーションを担当した上級僧が説明中にスマホを見ていたのは印象的だった。

タイでは、バンコクの発展ぶりに驚きました。隣国ミャンマーと違って、鉄道により都市化がいちだんと進んでいる印象を受けました。鉄道の果たす役割の大きさでしょうか。ショッピングモールにある日本食レストランが集うフードコート。特許事務所の事務員の女性がスマートフォンにつけていた日本のキャラクターのストラップ。なにより、自動車を始めとする日本企業の進出。日本にとってのプレゼンスの高さを感じました。

シンガポールでは、幸運（！？）にも、ヘ



【写真1】馬車に乗って登場する新郎（インド）



【写真2】週末の地下鉄（インド）



【写真3】Meditation Room（ミャンマー）



【写真4】 日本でも馴染みの定食屋チェーン(タイ)

イズの時期にぶつかりました。ヘイズとは、煙害のこと。聞けば、インドネシアから海を越えて飛んできているとのこと。観光を楽しむ気分になれなかったのは残念ですが、ガイドブックでは見えないシンガポールの一端を感じることができました。

シンガポールの隣国マレーシアには、延べ1ヶ月以上滞在しました。ASEANの若手実務家が集まった特許セミナー(SEAD)への参加から始まり、現地特許事務所の訪問、特許庁(MyIPO)の友人を訪ねて、オフィス内に入れてもらうこともできました。中華系、インド系、マレー系と、多民族国家であるマレーシア。近年、日本人の人気も上がっている反面、複雑なお国事情を感じることもありました。クアラルンプールの大型ショッピングモールで日本ブランドを見ないことはない。日本への親和性の高さを感じることができました。

4. まとめ

この連載を始めるにあたって、ASEAN・インドのキーワードは多様性であると考えていました。実際に記事を連載し、時には自ら足を運ぶにつれて、多様性の意味を考えるようになりました。日本ではASEANとひとくくりに捉えがちですが、それぞれの国は独立した国家であり、独自の文化圏を持っていま



【写真5】 遠くが霞む町並み(シンガポール)



【写真6】 審査官の友人たちと(中・筆者)(マレーシア)

す。複数の民族が暮らしている国もあります。歴史的な問題を抱えている国もあり、宗教的に切っては切れない国もあります。同じテーマで記事を書いてみても、個人個人で全く違う色になりました。ASEANとインドは、日本と同じように、個性あふれる魅力的な地域であり、そして何より、素晴らしい友人たちの暮らす国である。3年の連載でそう思うに至りました。

著者紹介

木本 大介(きもと・だいすけ)

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部3年、特許事務所7年の経験を経て2013年7月より現職。モットーは、「正しいモノより楽しいモノを」。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>